



たんぽぽぐみだより

2018年 11月 第3号

秋から冬へとバトンタッチするこの季節。日中ぽかぽかとしたお日様がより暖かく感じられるほど、朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。日中は、戸外遊びやリズム遊び、運動遊びなどでたくさん体を動かし、丈夫な体づくりを行っていきたいと思います。

また、気温の差が大きく体調管理が難しい時期なので、衣類の調節など十分に気を付けて過ごしていきたいです。

小さな先生

ちょっと前までは、自分のことで精一杯だった子ども達も最近では、「小さな先生」になって私達保育士を助けてくれています。

9月に新しいお友達が2人増え、園生活に慣れていない頃のエピソードです。泣いている子どもたちの隣に行き「大丈夫だよ」と言わんばかりの表情で、優しく頭を撫でてくれたり、自分の使っている玩具をそっと貸してあげていました。他には、ぬいぐるみと一緒に使うハンカチやタオルを片付けるときには、きちんと畳んでしまう姿も見られます。また、保育士間で、「〇〇くんのうんち交換しますね」と声をかけ合っていると、聞いた子がお尻拭きをロッカーに取りに行き、使い終わったあとには、すぐに保育士のところにきて元の位置に片付けてくれます。

こんな風に毎日たくさんのお手伝いをしてくれる子ども達。保育士の行動をよく見ているのだなと感心すると同時に、何でも真似したがる時期なので、子ども達に隅々まで見られていると意識しながら、生活していかなければいけないなと改めて感じました。



目で見て、手で触れて

お散歩に行くと、花や虫、風や波の音などたくさんの自然を感じられます。自然の物を使って制作を楽しみました。

猛暑が続いた夏、涼しい日に海に行き貝殻を探してみました。大小いろいろな形の貝殻がありました。そして、持ち帰ってきた貝殻



にビーズやシールを貼って飾りつけをしました。貝殻の表面が丸くなっているのですが、「どれがいい？」と聞くと、「これ！！」とそれぞれ自分で選び楽しんで行

えました。また、保育参観のときに見て頂きましたが、秋には、落ち葉を使って「ライオン」の制作を行いました。実際に落ち葉拾いに行き、「これを見つけてきてね」と落ち葉を見せて伝えてみると、

「はっばあった！」と1枚1枚大事に持ってきてくれる子、「これ？」と確認しながら持ってきてくれる子とさまざまでした。中には、「あったよ！」と、得意気な顔で手のひらいっぱい大きな石を持ってくる子もいました。後日、見つけてきた落ち葉をライオンのたてがみに見立て画用紙に貼りました。最近では、松ぼっくりを見つけて持ち帰ってきたので、クリスマスツリーに使える飾りを作ろうかと考えているところです。冬になると氷や霜を見つける機会が増えるので、踏んで音を楽しんだり実際に触れてみたいと思います。



幼児期から自然に触れることは、五感を刺激し、好奇心を育んだり、豊かな感受性の発達を促す基本的な要素と言われています。「目で見て、手で触れて」を大事にしながら、これからもお散歩や戸外遊びを通して自然に触れる機会を増やしていきたいと思っています。

